



近くで見ると
迫力満点！
汽笛の音に
超〜ビックリ☆

片道でも、往復でも楽しめる。
SL「やまぐち」号に乗ろう！

念願のSLとの初対面に心躍らせて新山口駅へ。ゴットンゴットンと一番ホームにSL「やまぐち」号が入ってくる。全国から詰めかけたSLファンや乗客からワーツと歓声が沸き上がり、一帯は独特の熱気に包まれます。間近で見ると黒い車体に大きな車輪、モクモクと吐き出される煙は迫力満点！ここで先頭のC571号機をバックに撮影タイム。ホームの熱気は最高潮に達します。ポーツと大きな汽笛が鳴れば、いよいよ出発。いよいよ片道2時間の小旅行の始まりです。



今回の座席は明治風。革張りのシートとランプ風の照明が旅情をかき立ててくれます。レトロな電灯が板張りの床を照らす昭和風、ステンドグラスが幻想的な欧風など、それぞれデザインの違いを渡り歩くと、まるでいくつかの時代をタイムスリップしたような気分。最後尾にある展望デッキに出れば、石炭の独特のにおいが風に乗って鼻をくすぐります。

ギャラリーに見送られて新山口駅を出発したSL「やまぐち」号は、住宅街を通り抜け、県内有数の温泉地として知られる湯田温泉、大内氏の栄華がしのばれる京都・山口を過ぎ、緑に包まれた山間部へと進みます。ここからは、一キロメートルで二十五メートルを登る二五パーミルの急勾配が続く難関区間。最大の難所とされる田代トンネルを抜けると、昔懐かしい給水塔が残る篠目、四季折々の風情が楽しめる長門峡、りんご園や田畑が広がる阿東地域を経て、赤瓦と白壁の家並みが続く終点津和野へと到着します。

お菓子やお弁当を広げる家族連れ、おしゃべりに花を咲かせる団体客、ぼんやりと外の景色を眺める人など、車内の風景もさまざま。沿線には、ベストショットを撮影すべく、カメラを手にした人がたくさん待ち構えています。子どもも大人もSLに向かって手を振る姿に、何の違和感もなくこちらも笑顔で手を振り返してしまいます。

乗客それぞれの時間を乗せて走るSL「やまぐち」号。津和野で一泊して新山口までの道のりを楽しんだり、道の駅がある長門峡駅で途中下車したり、楽しみ方はさまざま。今度の週末、あなたもSL体験してみませんか？

